gui\_canABH3 簡易マニュアル

2023/03/13 yo0043

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| Date | Auth | Note |
| 2023/03/13 | yo0043 | 1st release |
|  |  |  |

内容

**目次項目が見つかりません。**

概略

|  |
| --- |
| 本ソフトウェアは、当社製DLL（CANabh3.DLL 及び CANwacousb.DLL）を利用して、当社ドライバ  である小型ABH3とCAN接続にて通信を行うサンプルコードに相当するソフトウェアとなります。  本ソフトウェアのソースコードは、完全な形で公開されています。 |

保証

|  |
| --- |
| 当社およびその供給者は、商品性、特定目的に対する適合性、および権利侵害の不存在その他について明示であると黙示であるとを問わず、一切保証をするものではありません。本ソフトウェアおよびドキュメントの使用若しくは機能から生じる全ての危険は、お客様が負担しなければなりません。 |

責任の制限

|  |
| --- |
| 当社およびその供給者は、本ソフトウェアおよびドキュメントの使用または使用不能あるいはサポートサービスの提供または提供不能から生じる一切の損害（逸失利益、事業の中断、事業情報の喪失またはその他の金銭的損失を含みますがこれらに限定されません）に関して一切責任を負いません。たとえ、当社がこのような損害の可能性について知らされていた場合でも同様です。 |

動作環境

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 要素 | 要求仕様 | 備考 |
| CPU | x86及びx64のコードが動作するCPU | Intel or AMD の64bit CPU |
| OS | Windows 10 64bit版と互換があるOSで、  OSが軽快な速度で動作している事。 | Home or Pro |
| Runtime | VisualStudio 2019 で作成したソフトを動作させる  為の再頒布パッケージがインストールされている事。 |  |
| CAN-I/F | 以下から最低1つ必要  ・Ixxat USB-to-CAN V2  ・当社作成CAN-I/F | Ixxat社の方は、要デバイスドライバのインストール |
|  |  |  |

ソフトウェア構築詳細

|  |  |
| --- | --- |
| 要素 | 仕様 |
| 構造 | 32bit MFCアプリケーション（MDI） |
| DLLの利用方法 | 動的リンク |

基本的な使い方

利用の流れ

|  |  |
| --- | --- |
| No. | 手順 |
| 1 | PCに本ソフトをインストール（フォルダのコピー）を行います。 |
| 2 | PCに利用するCAN-I/Fを取り付けます。  Ixxat USB-to-CAN V2ケーブルを利用する場合は、メーカーがWebに用意している  デバイスドライバのインストールも必要となります。 |
| 3 | 通信対象のABH3とCAN-I/FをCAN接続用のケーブルで接続し、通信対象に電源を供給します。 |
| 4 | 本ソフトを起動します。この状態ではウィンドウ枠のみが表示されます。 |
| 5 | 環境設定を行う為、「ファイル(F)」メニューの「環境設定」を選択し、  選択後に「設定」ボタンで確定します。   |  |  | | --- | --- | | 項目 | 設定する内容 | | I/F選択 | 利用するCAN-I/Fを選択 | | I/F番号指定 | 利用するCAN-I/Fに必要な情報を選択 | | ホストアドレス | PC側で利用するアドレスを選択 | | ボーレート | CAN-I/Fの通信速度を選択  この選択は接続対象側と合わせる必要有り | | 表示言語 | 本ソフトの表示言語を選択 | |
| 6 | 接続対象の画面を追加する為、「ファイル」メニューの「新規ウィンドウ(N)」を選択します。  接続対象の詳細を要求される為、以下を設定します。   |  |  | | --- | --- | | 項目 | 設定する内容 | | ABH3アドレス | 接続対象のアドレスを選択  利用済みの箇所にはコメントが付きます | | グループ番号 | 接続対象に設定されたグループ番号を選択 | | 機種 | 接続対象の機種を選択 |   設定が完了したら、「OK」を押して確定します。  （この時、「OK」が押せない場合は、使用済みABH3アドレスが指定されているので要修正） |
| 7 | CAN-I/Fの利用を開始する為、「通信(C)」メニューの「インターフェースの利用開始」を  選択します。（又は、F5キーを押す）  この時、エラーが出る場合は環境設定のI/F選択が間違っている可能性が有ります。 |
| 8 | 周期送信を開始する為、「通信(C)」メニューの「全ての周期送信を有効化」を選択します。  （又は、Ctrlキーを押しながらAを押す） |
| 9 | 接続対象と通信が開始され、状態が表示されるようになります。  ・操作フラグを設定するには、「操作フラグ」の場所で該当する項目を、クリックします。  ・指令を入力するには、左上の入力欄で数値入力し、リターンキーで確定します。  　（リターンキーで確定の為、マウス操作のみでは入力に難があります。ご注意ください）  ・特定の周期通信をやめるには、画面下部のチェックボックスからチェックを外す事で、  　該当するパケットが送信されなくなります。 |
| 10 | 終了する場合は、ソフトを終了します。  CAN-I/Fの接続等は、自動的に切断されます。 |

各メニューの機能

ファイル(F)メニュー

|  |  |
| --- | --- |
| メニュー項目名 | 内容 |
|  |  |
|  |  |
|  |  |

情報(I)メニュー

通信(C)メニュー

ヘルプ(H)メニュー